

II 特別連載 II

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第405回

### 筑波大学の活動報告



岩田 裕子  
(筑波大学 医学医療系准教授  
医学群看護学類  
国際交流委員長)

#### ガーナの学生招へい

#### 看護分野の先端技術学ぶ

筑波大学医学群看護学類は今年2月4日(10日)の7日間、ガーナの大学・専門学校で看護学を学ぶ学生と教員、計6名を招へいし、本学の学類生・大学院生・教員とともに「母子保健を中心とした看護分野における日本の先端技術について学ぶ体験交流」を実施しました。本学にはアフリカからの留学生が多数在籍しており、アフリカ学生会という組織が存在します。今回のプログラムは、この組織の代表者であるガーナ出身の留学生と教員との対話により実現しました。

#### 母子保健サービス提供施設の訪問

筑波大学附属病院(総合周産期母子医療センター)、なないろレディースクリニック(分娩入院施設、院内助産院、産後ケア施設)



胎児超音波診断ファントムを用いた妊婦の超音波診断の演習

プログラムスケジュール	1日目	成田国際空港到着
	2日目	筑波大学訪問、オリエンテーション 講義・討議(日本の母子保健システム)
	3日目	講義・討議(日本の看護師教育) 筑波大学附属病院見学 レディースクリニック見学
	4日目	講義・討議(母子保健に関する国際的な動向) 見学(訪問診療・訪問看護・訪問介護・有料老人ホーム) 日本文化体験(浅草浅草寺、スカイツリー)
	5日目	演習(授乳ケア、沐浴、産婦モデルを用いた分娩介助、超音波断層法) 見学(子育て支援センター、助産院) 日本の科学技術体験(宇宙航空研究開発機構)
	6日目	学生間交流(ガーナと日本のヘルスケアシステムについて討議) 研修成果発表・意見交換会、修了式
	7日目	成田国際空港出発

設)、助産院ナカヨシ、つくば市子育て総合支援センターの合計4施設を訪問しました。各施設の担当者から説明を受け、妊娠期から子育て期までの切れ目のない育児支援の実際を学ぶ機会になったと考えます。また、訪問診療・訪問看護・訪問介護・有料老人ホーム等を経営している施設としてメドアグリケアを訪問し、施設入所者に提供される日本食をご馳走になりました。

#### 母子保健を中心とした看護教育研究についての講義と演習

日本の看護師・助産師・保健師教育、母子保健に関する世界の動向についての講義を通して、両国間の共通点と違いについて討議しました。また、乳房モデルを用いた授乳ケア、新生児モデルを用いた日本式の沐浴、分娩介助シミュレータを用いた分娩介助、胎児超音波診断ファントムを用いた妊婦の超音波診断の演習を行いました。乳房モデルの装着は初めての経験ということで、新生児モデルを各自が抱っこしながらポジショニング(横抱き、交差横抱き、縦抱き、フットボール抱き)の演習を楽しく行うことができました。

#### 日本文化の紹介・体験



医学群看護学類生がガーナからの招へい者の質問に答えた



駐日ガーナ公使が出席するなかで行われた閉会式

らフォーアツ  
プセミナーを要  
望する連絡があ  
りました。その  
ため、より多く  
のガーナの学生  
に日本のヘルス  
ケアについての  
情報を共有し、  
双方の交流を深  
めることを目的  
として、オンラ  
インセミナーを  
企画し、4月に  
実施しました。  
ガーナからは2  
09名、筑波大  
学からは19名が  
参加し、活発な  
討議が行われま  
した。今後、二  
国間交流のさら  
なる活発化、協  
力関係の構築を  
目指して、文化  
交流や技術交流  
を継続していき  
ます。

最終日には、ガーナの看護教育の歴史と現在について等の内容を含む研修成果を発表してもらい、両国の学生・教員間で意見交換を行いました。招へい者からは、「日本人の平均寿命が長いことや、妊産婦死亡率の低さなどの背景にある工夫が知りたい」「予防接種の実施者は誰か」等の質問がある一方で、本学の学類生・大学院生・教員からは、ガーナの病院環境や看護教育についての質問があり、活発な討議が行われました。

閉会式には、駐日ガーナ公使と参事官、本学の副学長と国際担当の教員も参加し、将来的な国際交流について話し合いました。プログラムに参加した感想として、本学からは、「ガーナの母子保健について日本との違いを知ることができた」「同世代のガーナ人と交流出来た」等の肯定的なもの他に、「英語の訛りを理解するのが難しかった」などの感想も聞かれました。また、プログラム参加により得られたものとしては、ガーナや

宇宙航空研究開発機構(JAXA)、浅草寺、スカイツリーを訪れました。満員電車、日本食(特に母は初めての経験だったそうです)、降雪と寒さの経験も、招へい者にとっては貴重な文化体験となったようです。

## ■ 研修成果発表

アフリカへの関心、国際交流や海外留学への関心、英語コミュニケーション力の向上、国際的な視野や経験の深まり等があげられました。招へい者からは、「両国の看護教育やヘルスケアシステムについての意見交換が有意義だった」「国際的な視野が深まった」「日本への留学や就職を選択肢として考えたい」などの感想が得られました。

## ■ プログラムの成果

プログラムの実施により、ガーナからの招へい者に「母子保健を中心とした自国の問題を外の視点で捉え直し、母国の課題解決に向けたより具体的な筋道を考える機会」を提供できたのではないかと考えます。そして自らのキャリアデザインを選択肢として、日本の大学への留学を具体的に意識させることに貢献しました。日本人学生に対しては、日本の母子保健が世界的には「当たり前」ではなく、途上国の制約条件下でどうするかを具体的に考える機会になったのではないかと考えます。両国の参加者にとって、グローバルな視点で自らのキャリアを考える動機づけを行うことができました。

## ■ 今後の展望

プログラムの終了後間もなく、招へい者から